

令和3年度 事業報告書

自 令和3年 4月 1日
至 令和4年 3月 31日

事業概況

令和3年度のわが国経済は、前年度に続き新型コロナウイルス感染症による大きな影響を受けました。年度当初より緊急事態宣言が継続、10月には一旦小康状態となりましたが、新種株により1月にはまん延防止等重点措置が発令、3月には解除されたものの感染者数は高止まりしております。

わが国の航空業界も、回復の兆しは見られたものの、依然としてコロナ禍前の半分以下の水準に留まり、国際航空貨物を除き厳しい状況が継続していますが、航空・宇宙の新分野では、無人航空輸送や空飛ぶクルマの実用化への動向が注目を集め、また小型衛星を使った宇宙ビジネスにも多くのベンチャー企業が参入するなど新たな展開もありました。

当協会の事業も大きな制約を受けましたが、其々の分野で万全の感染症対策を講じ、「With コロナ」での事業運営ノウハウを蓄積しながら、事業の活性化、情報発信の強化に取り組み、次の時代を担う若年層の当協会行事への参加を増やすことを目指しました。前年度と同様、航空スポーツ各種競技会、スポーツイベント、航空スポーツ教室、こども模型飛行機教室、空の日関係行事等のかなりの部分が中止または延期となりましたが、航空功労者表彰や航空神社祭事、新年賀詞交歓会は、日程変更や人数制限を行う中で開催し関係者の交流をはかることができました。講演会等につきましても、オンラインと人数制限を設けた実開催との併用により、厳しい環境の中でも積極的に情報発信を行いました。

当協会の財政基盤である航空会館運用事業は、貸会議室の稼働が前年度より更に落ち込みましたが、定額の運営委託に変更したことにより一定の収入を確保し、またイベントの中止・延期・規模縮小や、費用削減の取組により、令和3年度の当協会収支は前年度の赤字から、黒字水準に回復することができました。また、社会の要請や役職員等の罹患防止のため、感染防止対策、テレワークの実施を年間とおして取組みました。

文化事業として「航空と宇宙」定例講演会を、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受けてオンライン配信のみとした3回を含めて、6回開催しました。参加者のすそ野を広げるためにオンラインで配信した講演会のアーカイブ配信も行いました。また一部の講演会については、配信を外部委託することにより品質を向上させました。

航空図書館では、利用環境改善に取り組むと同時に、SNS を活用した情報発信を継続し、認知度向上を図ったこともあり、利用者数は前年度を上回りました。劣化・損傷の恐れのある蔵書の一部をデジタル化して、それらを閲覧いただける環境の整備を進めました。

航空遺産継承事業では、東京文化財研究所と年間を通して共同研究に取り組み、収集して調査研究を行った航空遺産の写真を協会ホームページで、協会が所有する三式戦闘機二型「飛燕」を岐阜かかみがはら航空宇宙博物館でそれぞれ公開するなどの活動を通して航空遺産の社会的認知向上に努め、資料のご寄贈や写真の貸し出し依頼、そしてさまざまなお問合せが増加しました。

例年「空の日」に開催する表彰式は、日程を延期し11月1日に開催しました。表彰事業の活性化を図ることを企図して、空の夢賞を「空の移動革命」「宇宙ビジネス」の分野で事業を展開する4団体に授与しました。表彰式には国際航空連盟ヤング・アーティスト・コンテストで入選した子どもたちも出席しました。また空の夢賞を授賞した4団体によるミニ講演会も開催しました。

全国地域航空システム推進協議会から事務局業務を継続して受託しました。緊急要望「新型コロナウイルス感染症の感染拡大による地域航空システムへの極めて深刻な事態を乗り切るためのご支援について」を国土交通省に提出した11月の要望活動を含めて、受託業務を遂行しました。

昨年から続くコロナ渦により、航空スポーツの分野でも、内外を問わず多くの競技会やイベントが年度を通じて開催中止や延期に追い込まれ、当室の事業活動は変更を余儀なくされましたが、テレワーク等を活用し、役職員や関係団体、競技会関係者等の罹患リスク最小化を大前提としつつ事業を進めました。

国際航空連盟（FAI）関係では、11月に開催されたFAI年次総会を始めとして、国内外の各種会議体等への対応をWebや書面などのバーチャルツールを用いて実施致しました。また日本選手権や世界選手権出場に係る公認、国際記録の承認や管理、FAIの各種窓口業務等の日常的な国内競技団体や競技者に対する支援活動についても着実に継続いたしました。

国際線発着調整業務では、成田国際空港、東京国際空港（羽田）、関西国際空港、新千歳空港、福岡空港の5混雑空港に就航する国際・国内定期便のスケジュール調整に関し、諸制約を踏まえつつIATA（国際航空運送協会）等の定めるガイドライン等に則って、中立性、公平性、透明性等を確保しつつ、業務を行っております。昨年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響による航空需要の大幅な減少が継続し、航空会社は引き続き大幅な減便を余儀なくされましたが、関係する国際3団体とも密接に連携して、発着調整を実施しました。

各事業の詳細は後頁の通りとなりますので、ご参照願います。

第 1 庶務事項

新型コロナウイルス感染症への対応

当協会は、リモートワーク環境においても、役職員に対して事務所内と同等の就業環境を提供する為に、2020年10月に協会内データのクラウド化とノートPCを導入し、2021年11月には電子決裁システムを導入した。これにより在宅勤務の計画的実施やオンライン会議が可能となり事務所内の三密回避を実現する事が出来た。

常勤役職員に対しては、2020年2月末より、毎日の体調チェックや人が密集する場所への立ち入りを控えるよう指導するとともに、緊急事態宣言期間中は時間短縮勤務やテレワークを実施、その他の期間においてもテレワークおよび時差出勤を推奨した。

東京都では、4月12日からまん延防止等重点措置が適用され、4月25日から6月20日までは3回目の緊急事態宣言、6月21日から7月11日まで再びまん延防止等重点措置、7月12日から9月30日まで4回目の緊急事態宣言、10月から年明け1月までは解除されたものの、2023年1月21日から3月21日までは、オミクロン株により再びまん延防止等重点措置が発令され、年度を通じて新型コロナウイルス感染症による影響を受け続けた。

I . 会 議

1 . 評 議 員 会

第15回評議員会を新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から書面開催とし、6月10日に令和2年度の決算及び評議員、理事の選任について承認可決した。

第16回評議員会を書面開催し、山田圭一常務理事が任期途中である9月30日付にて辞任、有満也人氏を理事として補欠選任する事について9月30日に承認可決した。

2 . 理 事 会

第33回理事会を新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から書面開催とし、令和2年度事業報告並びに決算（貸借対照表、正味財産増減計算書、並びに同付属明細書）、令和2年度公益目的支出計画実施報告書、評議員会の招集、顧問選定について5月20日に承認可決した。

第34回理事会を書面開催し、理事篠辺修を会長（代表理事）に、理事萩尾裕康並びに理事丸山芳範を副会長に、理事江塚春夫を専務理事に、理事山田圭一、理事高津良彦並びに理事大杉悟朗を常務理事に選定する事について6月10日に承認可決した。

山田圭一常務理事が9月30日をもって辞任、理事1名の補欠選任の審議を書面による評議員会にて行う為、第35回理事会を書面開催し書面による評議員会の招集、第36回理事会を書面開催し書面による評議員会において、有満也人氏が理事へ選任された場合、有満也人氏を常務理事に選定する件について9月30日に承認可決した。

第37回理事会を開催し、航空クラブの運営体制の変更、令和4年度事業計画及び予算、航空会館買戻しに係る借入れ（方針）について令和4年3月24日に承認可決した。

3. 常任理事会

重要な案件について審議し、協会事業の確実な執行と監督を実施した。

第1回	令和3年 4月 8日	令和3年度資金運用管理方針（案）について承認。各事業活動状況の報告。
第2回	令和3年 5月13日	令和2年度事業報告及び決算の件、令和2年度公益目的支出計画実施報告書の件、評議員会招集の件、顧問の選任（案）、青少年航空宇宙絵画国際コンテスト 団体賞の新設、表彰委員の退任について承認。各事業活動状況の報告。
第3回	令和3年 6月17日	航空スポーツ統括団体認定規程について承認。各事業活動状況の報告。
第4回	令和3年 7月15日	航空遺産継承基金特別顧問の委嘱について承認。各事業活動状況の報告。
第5回	令和3年 9月 9日	各事業活動状況の報告。
第6回	令和3年10月14日	各事業活動状況の報告。
第7回	令和3年11月18日	各事業活動状況の報告。
第8回	令和3年12月16日	航空クラブの運営体制の変更、表彰委員の選任について承認。各事業活動状況の報告。
第9回	令和4年 1月20日	各事業活動状況の報告。
第10回	令和4年 2月17日	表彰委員会委員候補者の選定、航空遺産継承基金専門委員候補者の選定について承認。各事業活動状況の報告。
第11回	令和4年 3月17日	令和4年度資金運用管理方針(案)、令和4年度事業計画及び予算(案)、航空会館買戻しに係る借入れ(方針案)、第37回理事会資料について・航空クラブの運営体制の変更について、令和4年度事業計画及び予算の承認について、航空会館買戻しに係る借入れについて(方針)について承認。各事業活動状況の報告。

II. 役員人事

1. 理事

令和3年 6月 10日 退任 (5名)	今清水浩介、長田 太、近藤 晃、湯本 到、 渡辺浩一郎
令和3年 6月 10日 就任 (23名)	篠辺 修、萩尾 裕康、丸山 芳範、 江塚 春夫、大杉 悟朗、高津 良彦、 山田 圭一、川勝 弘彦、東 昭、 伊藤 博行、伊藤 義郎、岩崎 貞二、 大川 順子、太田 耕治、岡田 清、 甲斐 正彰、門脇 邦彦、後藤 昇弘、

	田村 明比古、戸矢 博道、縄野 克彦、 濱尾 豊、藤野 琢巳
令和3年 6月 29日 退任(1名)	甲斐 正彰
令和3年 9月 30日 退任(1名)	山田 圭一
令和3年 10月 14日 就任(1名)	有満 也人

2. 評議員

令和3年 4月 17日 退任(1名)	棚橋 泰
令和3年 6月 10日 退任(2名)	坂尻 敏光、鈴鹿 靖史
令和3年 6月 10日 就任(3名)	大塚 洋、斉藤 典和、張替 正敏

III. 賛助員

平成20年に「公益法人制度改革関連法」が施行され、それに則り日本航空協会は平成24年7月2日に一般財団法人に移行を完了した。これを機に新定款にて新賛助員制度を設け、日本航空協会の事業全般に賛同する法人及び個人の方々へ賛助をお願いしている。

令和3年度実績 法人賛助員 133口(15法人)

全日本空輸株式会社、日本航空株式会社、株式会社梓設計、
アビコム・ジャパン株式会社、株式会社エアージャパン、株式会社エージェーピー、
兼松株式会社、国光施設工業株式会社、株式会社ジャムコ、新中央航空株式会社、
双日株式会社、東京海上日動火災保険株式会社、東京国際空港ターミナル株式会社、
株式会社日本空港コンサルタンツ、丸紅株式会社(順不同)

第2 事業実績

I. 文化事業

1. 講演会

(1) 「航空と宇宙」定例講演会の開催

幅広い分野から講師を迎えて航空と宇宙に関する定例講演会を昭和58年の開講以来継続して令和3年度も開催した。新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するために講演会をオンラインで配信し、東京都の感染症対策に則って収容人数を制限した会場（航空会館）での開催と合わせて下表の通り開催した。講演会のオンライン配信は遠隔地の参加者や学生の参加者に総じて好評であった。

また、動画共有サイトYouTubeに設けている「日本航空協会チャンネル」に、今年度開催した講演会の記録映像を掲載して、いつでも視聴いただける環境を整えたことで、多くのご視聴（アーカイブ視聴）をいただいた。

回／開催日	演 題 ・ 講 師	参加人数
第291回 4月21日 オンライン配信	エアガール・スチュワーデス・キャビンアテンダント ～私たちの時代 「日本航空一期生」著者・ノンフィクション作家 中丸 美繪 氏	1,342人 アーカイブ視聴回数：771回
第292回 6月7日 オンライン配信	Face Up！顔パス最新事情 ～ますます便利&安全になる空港や私たちの生活～ 顔認証・生体認証技術の最新状況 (1) 顔認証・生体認証技術の最新状況 東北大学特任教授（客員）、日本電気（株）フェロー 今岡 仁 博士(工学) (2) Face Expressー顔認証ではじまる新しい空の旅 成田国際空港（株）上席執行役員経営企画部門副部門長 宮本 秀晴氏 (3) 顔認証を活用した地域活性化（地方空港を起点に） 南紀白浜エアポート 誘客・地域活性化室長 森重 良太氏	933人 アーカイブ視聴回数：382回
第293回 6月7日 オンライン配信	宇宙飛行士への挑戦 ～ファイナリストの今～ (1) 日本初 宇宙船「こうのとり」フライトディレクターの挑戦 (2) 宇宙飛行士選抜ファイナリスト 宇宙飛行士挑戦から得たもの 2008年 宇宙飛行士選抜ファイナリスト / JAXA「こうのとり」 フライトディレクター 内山 崇氏	582人 アーカイブ視聴回数：532回
第294回 9月8日 会場開催とオンライン配信	『空の日・宇宙の日』記念特別講演会 (1) 「究極のミッションを安全に実現するために」 航空自衛隊 松島基地 第四航空団 ブルーインパルス 第11飛行隊長 遠渡 祐樹氏 (2) 「宇宙ビジネスのトレンドとチャレンジ、そしてチャンス」 慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科 教授 神武 直彦氏	会場参加者数 23人 オンライン：2,321人 アーカイブ視聴回数：2,323回

第295回 12月8日 会場開催とオンライン配信	(1) そろそろ行きたい！～達人から学ぶ旅、「旅行ガイドブック」が出来るまで～ JTBパブリッシング株式会社 / 旅行ガイドブック「るるぶ」等の元編集者 小松田 淳氏 (2) 旅の図書館&航空図書館のご紹介	会場参加者数 3人 オンライン：526人
第296回 3月25日 会場開催とオンライン配信	「夢をつなげよう！そら（空/宇宙）へ向かって」 ～空研究者だけど、パイロット？アクロ？マルチな生き方のコツを伝授～ 宇宙航空研究開発機構 航空技術部門 航空利用拡大イノベーションハブ 主任研究開発員 飯嶋 朋子氏 日本女性航空協会理事長 鐘尾 みや子氏	会場参加者数 47人 オンライン：309人 アーカイブ視聴回数：250回

(注) 第291回は航空クラブとの共催、第292回は全国地域航空システム推進協議会との共催、第294回の『空の日・宇宙の日』記念特別講演会は日本航空宇宙学会ならびに日本航空技術協会との共催、第295回は旅の図書館、航空クラブとの共催、第296回は日本女性航空協会、航空クラブとの共催として開催した。

2. 展示会

航空会館展示コーナーで下表の展示を行った。

展示場所	展示期間	展示内容
2階	令和2年10月～	協会が所有する模型と帝国飛行協会の記念品（模型4機） 航空図書館の書籍 航空図書館6階への誘導を目的に、案内文とともに展示（模型5機、書籍3冊）
6階	令和2年4月～	『JSC presents デスクトップモデルの世界 外国のエアライン編』（模型75機）
9階	令和2年12月～	協会が所有する模型と絵画（模型2機、絵画1点）

3. 航空図書館

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止策で時間を変更して開館した。4月～6月には11:00～15:30、7月～10月には10:30～16:00とし、11月に通常の開館時間に戻した。新型コロナウイルス感染症緊急事態の終了、そしてまん延防止等重点措置の終了後に来館者数が回復傾向に転じた。感染症対策で来館が困難な利用者を中心に、電話やメールでリファレンスサービスを提供した。

TwitterやFacebookに開設したSNS公式アカウントを活用して、航空宇宙の推薦図書やイベント情報などを日々発信してフォロワー数を増やした。

専門図書館としての利用価値を向上する目的で、蔵書検索システムに雑誌記事の検索機能を付加した。

利用者の利便性向上を企図して、蔵書検索用にパソコンを館内に設置するとともに、館内の書架案内表示をより分かりやすく改めた。港区にある専門図書館のグループや航空科学博物館と連携してノウハウの共有やリファレンス協力を行った。外部の団体が発行する機関誌や雑誌の取材を受け、それぞれの記事で航空図書館を広くご紹介いただいた。

(1) 利用状況 (令和3年度実績)

項 目		年度計	月平均	1日平均	前年比
開館日数 (日)		229	19	-	+16%
入館者数 (人)		919	77	4	+21%
貸出登録証発行数 (件)		14	1	-	±0%
内 訳 (件)	(一般)	12	-	-	+8%
	(大学生・短大生・専門学生)	2	-	-	+50%
	(高校生)	0	-	-	-200%
	(小・中学生)	0	-	-	±0%
貸出利用者数 (人)		74	6	0	+31%
貸出冊数 (冊)		207	17	1	+37%
複写利用者数 (人)		254	21	1	+17%
資料照会・利用案内件数 (件)		301	25	1	+45%

(2) 資料受入状況 (令和3年度の実績)

	購入	寄贈	総計	前年比
	計	計		
図書 (冊)	12	356	368	-7%
雑誌 (冊)	345	476	821	-1%

4. 機関誌・図書の刊行

機関誌「航空と文化」冊子版を航空宇宙に広くテーマを求めて年2回発行した。当協会ホームページに「航空と文化」WEB版に冊子版から記事を転載している。編集体制の都合で令和3年度に発行した冊子版記事を、令和4年度に順次転載していくこととした。

(1) 冊子版「航空と文化」

No.123 (1,600部)、No.124 (1,600部) を発行した。

「航空と文化」No.123 夏季号 令和3年7月15日発行

「航空と文化」No.124 新春号 令和4年1月15日発行

(2) WEB版「航空と文化」

令和4年度に更新することとした。

(3) 「航空統計要覧」

2021年版を令和4年2月4日に発行した。収録している各種統計の発行時期が例年よりも遅れたことで、例年は12月に発行している本書もその発行が遅れた。

(4) 「数字でみる航空」

2021版を令和3年10月8日に発行した。

(1) 及び (2) の概要は、別表1 (付1頁) の通りです。

II. 航空遺産継承事業 (航空遺産継承基金事務局業務)

航空遺産の調査、寄贈資料の整理・修復、資料の貸出などの活動を実施した。

1. 航空遺産継承活動の社会的認識の向上

新たに 1 名の個人賛助員の賛同をいただいた。賛助員数は法人、個人とも前年度と同じとなった。

(1) 賛助員

令和 3 年度賛助員の状況は以下の通り。

特別賛助員 (累計) 11 名、1 団体

法人賛助員 34 口 (9 法人)

個人賛助員 31 口 (28 名)

(2) 特別顧問

篠田 謙一	独立行政法人国立科学博物館館長
三輪 嘉六	前独立行政法人国立文化財機構九州国立博物館館長

(3) 専門委員

飯野 明	都立産業技術高等専門学校 名誉教授
北河 大次郎	文化庁 文化財調査官
鈴木 一義	独立行政法人国立科学博物館 産業技術史資料情報センター長、当協会評議員
藤田 俊夫	航空史家
柳沢 光二	航空史家
横山 晋太郎	前かかみがはら航空宇宙博物館参事、独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所客員研究員

2. 資料の保存継承

(1) 散逸の恐れのある資料について保存継承のため以下の寄贈を受けた

- 1) 佐々木靖章氏より「帝国飛行協会の郵便飛行大会絵はがき 2 枚」
- 2) 松上恵一氏より、1950 年代に自由航空研究所で開発された「荻原式 JHX-2 (ラムジェットエンジン・ヘリコプター)」などの資料 (部品、写真帳など)
- 3) 中神敏男氏より武石浩玻の「白鳩号」の羽布
- 4) 内山宏氏より、祖父の神明恵蔵氏が陸軍技手として 1930 年代にアメリカに出張した際の記録
- 5) 故山科達雄氏 (前模型航空連盟事務局長) の親族より、山科氏製作の模型飛行機 8 機
- 6) 戦前・戦中に朝日新聞航空部で活躍した航空機関士・永田紀芳 (きよし) 氏のご息女の永田英美子氏から遺品である双眼鏡 (戦前のドイツ・ツァイス製)
- 7) 林湛子氏から戦前の航空日章を含む古い徽章類
- 8) 佐々木義彦氏から飛行船関連の資料

- 9) 戦中は海軍技師として航空機開発に携わり、戦後は鉄道技術に貢献され、鉄道総合技術研究所の所長も務めた松平精氏のご親族から海軍機の振動試験資料など
 - 10) ジェゼッペ・ピカレラ氏から、故・阿部章三氏(航空史研究者)の航空関係写真ネガコレクション
 - 11) 堀田康彦氏から、祖父・斎藤進氏(1970年代の日本航空役員、1976年没)の所蔵していた天皇フライトの機内食メニュー(桐箱入り)を含む資料
- (2) 「重要航空遺産」の選定を進める計画であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況を勘案して見合わせた
- (3) 航空資料保存に関する研究
前年に引き続き、独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所と共同で実施している資料保存に関する研究を継続した。資料の記録撮影を終え、大きなサイズのグライダー設計図や戦前戦中の模型飛行機の収蔵用箱などを作成して保存方法を改善した。

3. 資料の調査研究

- (1) 航空機を対象とした悉皆調査については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況を勘案して見合わせた
- (2) 寄贈資料等について専門家の協力を得ながら調査研究を進めた
 - 1) 府中市で発見された第2次世界大戦中の飛行機の水平安定板の調査を行い、府中市文化スポーツ部ふるさと文化財課の担当者に百式司令部偵察機のものと考えられることを伝えた
 - 2) 太刀洗平和記念館から同館への寄贈品(飛行機のプロペラと車輪)の調査への協力依頼を受け、賛助員である横川裕一氏のご協力いただきながら鑑定を行った
 - 3) 知覧特攻平和会館の陸軍四式戦闘機疾風の保存状態の文化財的調査に参加した

4. 資料の公開

- (1) 協会ホームページの航空遺産ギャラリーで「今月の一枚」として計12枚の写真を紹介した。航空黎明期の図書(ジェーン年鑑8冊、戦前の帝国飛行協会機関紙『飛行』合本4冊)をホームページ公開用にデジタル化した。
- (2) 三式戦闘機「飛燕」を岐阜かかみがはら航空宇宙博物館に継続して貸出した
- (3) 「飛燕」の修復の記録の編集を継続した
- (4) 以下の写真資料を貸し出した
 - 1) 全日本空輸株式会社に『翼の王国』8月号掲載用として、戦前の羽田飛行場の写真1枚
 - 2) 清水郁郎氏に『航空ファン』9月号掲載用として、戦前に毎日新聞が使用したライアン NYP の写真3枚
 - 3) 川崎重工業に『岐阜工場 100年史』掲載用として、写真11枚
 - 4) 岐阜かかみがはら航空宇宙博物館に企画展「もっと遠くへー長距離飛行に挑んだ A26ー」(10/31~11/21開催)用として資料43点および写真14枚
 - 5) 福岡市科学館に企画展「みんなのヒコークィ展」用として前田式703型滑空機などの写真2枚
 - 6) NHK 岐阜放送局に報道番組用として陸軍4式爆撃機の写真1枚
 - 7) テレビ東京の番組「所さんの学校では教えてくれないそこんトコロ！」(11月19日21時放送)に「大日本義勇飛行会」の写真1枚

- 8) テレビ九州にニュース番組用としてブレゲー19「東風」の写真1枚
- 9) 模型メーカー有限会社エアロベースに、HP掲載用としてルブリウールのグライダーの写真1枚
- 10) 立川市産業文化スポーツ部 市史編さん室に、講演動画用として『世界航空年鑑』(大正15年)の御国航空所の写真1枚
- 11) ユルゲン・メルツァー氏に、書籍(NASA History Division から発行予定)掲載用として震電などの写真5枚
- 12) 丹青社に「海上自衛隊呉史料館てつにくじら館」用としてF.5飛行艇の写真1枚
- 13) 株式会社ニュートンプレスに、書籍『飛行機大図鑑』掲載用としてルブリウールのグライダーなどの写真2枚
- 14) 国立科学博物館に「科博廣澤航空博物館」用としてシコルスキーS-58(南極観測船「そうや」搭載)などの写真
- 15) 公益財団法人都民劇場に、会員向け会報誌『都民劇場』掲載用として飛行館の写真1枚

5. その他

- (1) 寄贈資料に含まれていた古い武田薬品のビタミン錠剤の缶(中身無し)を、希望のあったアリナミン製薬に譲渡した
- (2) 鹿児島県沖の海底で発見された海軍九七式艦上攻撃機のものと思われる機体についてNHK大分放送局のインタビューを荻田職員が受けた
- (3) 福岡市科学館に企画展「みんなのヒコーキ展」の展示パネルの監修を行った
- (4) 寄贈資料に含まれていた日本交通公社の昭和20年代発行の旅行ガイド4点を「旅の図書館」に譲渡した
- (5) 雑誌『航空ファン』の記事連載中の北島幸司氏から航空図書館および航空遺産継承活動について取材を受けた
- (6) 岐阜の民家で発見された陸軍九二式重爆撃機のプロペラについて『中日新聞』から荻田職員への取材を受けた

Ⅲ. 航空スポーツ普及・振興事業

今年度もコロナ禍にあった航空スポーツ活動(競技会、イベント等)については、内外を問わず多くの分野で中止及び開催延期に追いこまれたが、その感染度合いの谷間においては熱気球やハング・パラグライダー等の日本選手権が開催される等、ポストコロナに向けた明るい兆しも見受けられた。

2021年のFAI総会は、2020年に引き続きデジタル会議システムを利用した方式で11月上旬に開催された。2020年に会長に就任した英国航空協会のDavid Monks氏の下で、初めて運営された1年間は世界的なコロナ禍の影響で、航空スポーツ国際大会の開催が著しく制限されたことなどから、公認料や選手の参加料などの収入はほとんど無かったものの、前会長および執行部が想定した予算から大きく乖離せずに運営されていること、及び、本年は会長並びに執行役員の改選が行われ無いことなどから、平穩のうちに推移した。

なお、2022年の総会は、現在のところ、参加者が会場に参集する総会が予定されている。このため、いくつかの航空スポーツ委員会の総会も、デジタル方式では無く、従来の集合方式での会議となる予定である。

アジア地域においては、アジア地域NAC（National Air Sport Control）の協議体であるAFA（Air Sport Federation of Asia）が、2021年4月にOCA（Olympic Council of Asia）から航空スポーツのアジアにおける窓口として承認された。当協会はAFAの執行役員の任を担っていることから、FAI執行部とも連携し、今後、アジア大会などオリンピック・ムーブメントへの参画などアジア地域での航空スポーツ振興も図っていくこととしたい。

国内イベントにおいては今年度も「青少年航空宇宙絵画国際コンテスト」を実施し372点の応募を頂き日本航空協会会長賞を含む9作品がFAI主催の国際コンテストに日本代表作品としてエントリーされた。尚、昨年度については3クラス中の2クラスで1位となり世界の座を複数射止めている。

今年度は本格展開が次年度より想定される商業用ドローン飛行に際しての航空スポーツ空域との棲み分けの調整や、改正航空法施行に伴う航空スポーツ諸活動への影響の最小化など、当室の傘下統括団体の抱える諸課題に管轄当局への働きかけを含め積極的に取組んだ1年でもあった。安全面については、今年度も残念ながら航空スポーツ重大事故が発生、当協会が把握している日本国内で発生した件数はパラグライダー3件（死亡者数3名）及びグライダー1件（死亡者2名）であった（対象期間：令和3年4月1日から令和4年3月末）。両統括団体に対して改めて組織的な安全対策構築に取り組むよう依頼をするとともに、（公社）日本ハング・パラグライディング連盟に対してはヒアリングを実施し再発防止の施策についての意見交換を行った。また、昨年度スポーツ庁からの提言を受け、JOCより傘下団体宛に作成指示のあったスポーツ団体ガバナンスコード遵守状況の自己説明に対応するべく、協会全体で取り組むプロジェクトとして会議体を7月に立ち上げ令和3年度自己説明を10月に協会ホームページに掲載した。航空スポーツ団体の活動状況は、別表2の通りである。

これまでの取り組みにより航空スポーツ愛好者の高齢化、会員数の減少という構造的な課題に対しては各種の媒体活用を通じた啓蒙活動が緒についたことから、次年度はこれをトリガーとしその底辺の拡大に努める。また、引き続き感染対策に最新の注意を払いつつもポストコロナを意識した競技・イベントの再開準備に前向きに取り組む、明るい話題作りに全力を傾注する。

2. 国際航空連盟（FAI）に関する活動

- (1) 第115回FAI総会が開催され、日本代表として当協会より3名が出席した。

会議名	期間	開催地	出席者
第115回総会	2021年11月9日 ～11日	オンライン	高津 良彦 岸 周豊 松崎 真也

- (2) 種目別国際エア・スポーツ委員会、技術委員会に関する活動
各委員会の開催期間、開催地及び出席者は下表の通り。

会議名	期間	開催地	出席者
国際模型航空委員会	2021年5月8日	オンライン	日本模型航空連盟 上山 憲一 児山 修造
国際ジェネラル・アヴィエーション委員会	2021年11月20日 ～21日	オンライン	(公社) 日本航空機操縦士協会 鐘尾 みや子
国際マイクロライト・パラモーター委員会	2021年11月20日 ～21日	オンライン	日本パラモーター協会 五十嵐 亮
国際ハング・パラグライディング委員会	2022年1月29日 ～30日	オンライン	(公社) 日本ハング・ パラグライディング連盟 岡 芳樹 牟田園 明
国際滑空委員会	2022年3月3日 ～5日	オンライン	(公社) 日本滑空協会 佐志田 伸夫
国際気球委員会	2022年3月18日 ～19日	ローマ (イタリア)	(一社) 日本気球連盟 古川 浩美

- (3) A F A (AFA: Air Sport Federation of Asia) 総会、執行役員会議

会議名	期日	開催地	出席者
執行役員会議	2021年4月9日	オンライン	岸
執行役員会議	2021年4月29日		岸
執行役員会議	2021年6月30日		岸
執行役員会議	2021年7月13日		岸
執行役員会議	2021年8月10日		岸
執行役員会議	2021年9月8日		岸
執行役員会議	2022年2月8日		岸
執行役員会議	2022年3月17日		岸

3. 選手権等

令和3年4月～令和4年3月末までに実施された日本選手権は、熱気球、模型航空機、ハング・パラグライダーの3種目、計8サブクラスを当協会が公認し、6サブクラスが成立した。また、日本で開催されたF A I 国際競技会（カテゴリーI、II）は、ハング・パラグライダーの1種目、計3サブクラスがF A I より公認され、1サブクラスが成立した。

海外で開催されたF A I 国際競技会（世界選手権）へは、気球、ハング・パラグライダーの2種目、計4サブクラスに選手団を派遣した。

各種競技会の実績は、別表3（付4～5頁）の通り。

4. 記録の公認等

令和3年4月～令和4年3月にFAIより認定された国際記録は、滑空機1件（アジア大陸記録）であった。

別表4（付6頁）を参照。

5. 航空スポーツ教室、こども模型飛行機教室

「スカイ・キッズ・プログラム」の開催

子供達に航空スポーツを安全に楽しむ機会を提供することにより、空に対する憧れや科学的な目でアプローチする姿勢、自然に親しむ心を醸成することを目的としたこれらの教室開催については、今年度も新型コロナウイルス感染症の影響を受け、一部開催されたものの、予定していた教室の多くが中止もしくは見送りとなった。

(1) 航空スポーツ教室

今年度は、例年開催している東京臨海広域防災公園（お台場）での教室を含め、全国で2ヵ所の開催を計画していたが、新型コロナウイルスの感染拡大により全て中止となった。

(2) こども模型飛行機教室（こども模型飛行機教室全国推進委員会共催）

4月以降、令和4年3月まで新規会場も合わせ6回の開催を予定したが、最終的には2回（熊本1回、神奈川1回）の実施であった。

開催に当たっては、国や開催地の自治体等が定める新型コロナウイルス感染症対策ガイドラインに沿った対応を大原則とし、当委員会が作成したガイドラインと合わせて、参加者の健康に最大の配慮をした上で開催した。

6. 青少年航空宇宙絵画国際コンテスト

(1) 2021青少年航空宇宙絵画国際コンテスト

国際航空連盟（FAI）が主催する青少年を対象とした国際絵画コンテスト「2021FAIヤング・アーティスト・コンテスト」へ、今年も国内予選で入賞した下表の9点を日本代表作品として出品した。

優秀賞

クラス	氏名	住所	題名
6～9歳 (年少)	山本 華子	徳島県阿波市	みんなでたのしくお空であそぼう！
	井田 結絆	群馬県前橋市	俺の飛行を見ろ！！
	平山 遥都	東京都葛飾区	お空のカーニバル
10～13歳 (年中)	沖野 空桜	広島県広島市	乗ってみたいナハンググライダー
	渡部 朔矢	埼玉県上尾市	Dreaming air sports with many friends
	池田 葵	熊本県熊本市	空のたまたま箱

14～17歳 (年長)	北居 由鈴名	兵庫県西宮市	TIARA
	大桑 真白	静岡県浜松市	その目に映るのは
	山城 沙也佳	神奈川県川崎市	空を楽しむ貴方へ

※2021FAIヤング・アーティスト・コンテストでは、年少クラスにおいて平山遥都氏が世界1位、山本華子氏が世界3位を受賞、また年中クラスにおいても池田葵氏が世界1位を受賞した。

※「青少年航空宇宙絵画国際コンテスト日本航空協会会長賞」は、国内審査において特に高い評価を得た山本華子氏へ授与した。

また、昨年に引き続き、上記国内入賞作品を10月1日(金)～11月1日(月)の期間限定で有楽町JALプラザに掲示した。

(2) 2022青少年航空宇宙絵画国際コンテスト

新たに「団体賞」を設け「夢の航空機を描こう(原題:Design your perfect aircraft)」というテーマの下、8月に国内コンテストの募集を開始した。募集開始に伴い、チラシ3千枚の配布や無料公募サイト6社及び航空関係雑誌4社への情報掲載を行い、かつ今年度も、新たに本邦航空会社のイントラネットにて、社員子弟を対象とした募集を行った。

また、HP上の絵画コンテストページを刷新。視認性の改善やFAQの充実を図った。

7. 主催・後援事業

主催・後援事業等は、**別表5**(付8頁)の通り。

IV. 表彰・弔慰援護事業

1. 表彰

(1) 令和3年度表彰

表彰委員会を6月10日に開催し、令和3年度の日本航空協会賞各賞の受賞者を決定した。11月1日に国際航空連盟(FAI)賞各賞の伝達式を兼ねた航空関係者表彰式を航空会館で開催した。毎年9月の「空の日」にあわせて開催している表彰式を、令和3年度は東京都に新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が発出されていたため11月に開催した。

1) 日本航空協会賞

種 類	受 賞 者	(敬称略)
航 空 亀 齢 賞	榊 達朗	
航 空 功 績 賞	大前 傑	
航 空 特 別 賞	JAXA災害対応航空技術チーム、JAXAはやぶさ2プロジェクトチーム	

空の夢賞	テトラ・アビエーション株式会社 teTraプロジェクトチーム、株式会社SkyDrive、株式会社Synspective 衛星システム開発部、株式会社QPS研究所 QPS-SARイザナミプロジェクトチーム
航空スポーツ賞	該当者なし

2) 国際航空連盟(F A I)賞

種 類	受 賞 者 (敬称略)
ポール ティサンディエ ディプロマ	甲賀 大樹
FAIエア・スポーツ・メダル	神島 馨、陣内 靖介
F A I ヤング・アーティスト・コンテスト賞	山本 華子、平山 遥都、池田 葵、

協会賞及びF A I 賞の詳細は、[別表6](#)の通り。記録の詳細は、[別表4](#)の通り。

- (2) 表彰事業の活性化を目的に、表彰対象を近年発展の著しい宇宙関係新興事業者や空飛ぶクルマなどのニューモビリティへも広げることとして、常任理事会での審議を経て表彰規定の一部を改定した。表彰対象の拡大を受けて、表彰委員からの個別意見聴取、表彰委員の新規委嘱、関係団体との連携を一層強化するための取り組みなどの活動を行った。

2. 弔慰援護

航空関係物故者8名について航空育英会を継続実施した。今年度の給付奨学金総額は1,296千円、受給奨学生の人数は8名で、その内訳は、中学生2名、高校生1名、大学生5名であった。

V. 航空交流事業

1. 新年賀詞交歓会

当協会が世話役の代表となって毎年開催する恒例の賀詞交歓会は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を鑑み参加人数を制限して令和4年1月7日に開催した。来賓に斉藤鉄夫国土交通大臣、泉田裕彦国土交通大臣政務官、久保田雅晴航空局長など航空関係者202名が出席して盛大に行われた。また、当協会会長の年頭の挨拶を当協会ホームページで公開した。

2. 航空神社祭事

令和3年9月21日に航空会館9階において、航空各社代表、祭神である航空殉職者・功労者の遺族の参列を得て、靖国神社神官の出張奉仕により航空神社平安祈願例大祭を実施した。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により一般参拝者の参列をご辞退いただいた。

また、令和4年1月7日に、協会役職員参列のもと新年祭を執り行った。

VI. 全国地域航空システム推進協議会

事務局業務

令和3年度も全国地域航空システム推進協議会から事務局業務を受託し、その事務を処理した。

令和3年度の総会は、新型コロナウイルス感染症感染予防策として書面により開催（協議期間5月10日～17日）した。長引くコロナ禍の影響により未曾有の極めて深刻な経営状況が続いている地方航空事業者や自治体の状況を把握し、そうした状況を克服すべく、国への緊急要望を行うことを全会一致で決議した。

国への要望活動を関係団体と連携して行った結果、令和4年度予算に当協議会の要望でもある航空機燃料税の減免を含め、航空ネットワーク維持・確保、コロナ時代における事業構造転換を支援するためのさまざまな支援施策が盛り込まれた。その他、乗員及び整備士の確保等、地域航空事業者の喫緊の各種課題に対しても要望を続け、国の予算項目に一定程度反映することができた。

また、特別講演（6月）、研修会（1月）を通して、会員に向けた航空政策の共有、地方航空路線や地方空港の優良な取り組み事例の紹介、自治体航空行政担当者向けに有益な知見の付与、そして自治体担当者、エアライン、そして航空関係者間のネットワーキングを目的とした取り組みを行った。

地域振興のための啓発活動として地域航空フォーラム（11月）を、地域航空の維持発展に向けて現状を共有し地域経済を活性化する取り組みにつなげるべく「コロナ後の地方航空線を考える」をテーマとて開催した。

VII. 「空の日」・「空の旬間」実行委員会事務局業務

以下の通年事業の事務局業務を実施した。

(1) 第69回「空の日」航空関係功労者大臣表彰

12月6日に国土交通省共用大会議室にて実施した。

(2) 広報活動

青少年向けに開設している空の日ホームページの普及と充実、Facebook、協賛各社・団体保有の機関誌等紙面への空の日に関する記事掲載（無償）、航空教室で広報活動に努めた。

(3) 中学生派遣事業

例年、シアトル、フェニックス、ロサンゼルスとの航空関連施設の見学を実施して来たが、今年度は、新型コロナウイルス感染の影響を鑑み関係各位と協議の結果、昨年度に続き今年度も開催中止とした。

(4) 絵画コンテストの支援

応募チラシの印刷費の一部補助と行った。今年度は、国際コンテストへの入賞があった為、複製パネル制作費用の一部を補助した。

(5) 地方事業の支援

全国の空港等で開催される空の日イベントに、事業費の一部を定額（5万円）補助した。

(6) 啓発事業の支援

青少年を対象とする「航空教室等」および航空スポーツ分野の安全に関する講演会、講習会等の取り組みに対して事業費の一部を支援した。

(7) その他

関東近郊の中学生10名程度を対象とし、ANA訓練センター、JALメンテナンスセンター等の羽田空港周辺航空関連施設見学を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み関係各位と協議の結果、昨年度に続き今年度も開催中止とした。

VIII. 国際線発着調整事務局業務

平成20年1月我が国の混雑空港である成田国際空港及び関西国際空港の国際線発着調整業務が日本航空協会に委嘱されたが、平成22年2月新たに東京国際空港（羽田）における国際線・国内線発着調整業務が追加委嘱された。加えて、平成24年8月新千歳空港における国際線・国内線発着調整業務が追加となり、更には平成27年8月福岡空港における国際線・国内線発着調整業務が追加委嘱された。従って、令和3年度においては、成田、関西、羽田、新千歳、福岡空港の5混雑空港における国際線・国内線に関する冬ダイヤ、夏ダイヤの調整作業を中心として、IATA（国際航空運送協会）会議等への貢献に加え、事務局の中立性、公平性、透明性等を更に推進するため下記に示すような業務を実施した。

1. 2021年冬ダイヤ、2022年夏ダイヤの調整

成田国際空港、関西国際空港、東京国際空港（羽田）、新千歳空港及び福岡空港の国際線・国内線スケジュールに関し、IATA、ACI（Airport Council International）及びWWACG（Worldwide Airport Coordinators Group）の定めるWASG（Worldwide Airport Slot Guidelines）及び当該空港のローカル・ガイドラインに基づき、下記の調整を日本乗り入れ航空会社（約130社）と実施した。

(1) 2021年冬ダイヤ（10.31, 2021 - 3.26, 2022）の調整

1) IATA SC（Slot Conference）事前調整

2021年冬ダイヤの調整に当たり、新型コロナウイルスの影響による欠航発生状況を踏まえ前年同期の運航実績を各航空会社に送付（4月中旬）、運航実績の相互確認を行い、各航空会社からの希望スケジュールの提出（5月中旬）を受け、希望スケジュールを規制値内に収めるよう調整し、内外の航空会社に対して一次回答（6月初旬）を行った。

2) IATA SC（Slot Conference）148回会議への参加

SC148回会議がカナダ・バンクーバーにて6月15日～17日の間開催される予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で同SC会議の実地開催は見送られ、オンライン方式で開催することとなり、日本乗り入れ航空会社とオンライン方式で個別面談を行い2021年冬ダイヤにおけるスケジュール調整を行った。

(2) 第11回空港発着調整委員会の開催

平成22年度に、レベル3の混雑空港（成田、羽田空港）を対象として、空港当局、管制機関、参入航空会社等で構成される首都圏空港発着調整委員会が設置された。更に、平成27年8月福岡空港がレベル3の混雑空港として追加されたことから、委員会の名称・規約の変更を行い「空港発着調整委員会」と名称を変更して再スタートすることとなった。本年度においては、令和3年3月にレベル3の混雑空港に指定された関西空港を対象に追加し、空港発着調整委員会を開催した。

2022年夏ダイヤに向けて、第11回空港発着調整委員会を9月30日、オンライン方式で開催した。（航空局関係者及び主な説明者は航空会館7階会議室から参加）主たる議題は、①2022年夏ダイヤに向けた調整方針（規制値）、②成田国際空港に関する報告（運用状況、空港施設整備計画）、③東京国際空港（羽田）に関する報告（運用状況、空港施設整備計画）、④福岡空港に関する報告（運用状況、空港施設整備計画）、⑤関西国際空港に関する報告（運用状況、レベル3の混雑空港への変更、空港施設整備計画）等であった。

また、上記委員会に合わせて、第2回スロットモニタリング委員会を開催した。同委員会は、レベル2の混雑空港（新千歳空港）も含めた5空港が対象となるが、今年度初めて従来のレベル3の混雑空港に加えレベル2の混雑空港の前年度実績についても、スロット監視の状況、スロットのミスユース等について説明した。

(3) 2022年夏ダイヤ（3.27 - 10.29, 2022）の調整

1) IATA SC (Slot Conference) 事前調整

2022年夏ダイヤの調整に当たり、新型コロナウイルスの影響による欠航発生状況を踏まえ前年同期の運航実績を各航空会社に送付（9月中旬）、運航実績の相互確認を行い、各航空会社からの希望スケジュールの提出（10月上旬）を受け、希望スケジュールを規制値内に収めるよう調整し、内外の航空会社に対して一次回答（11月上旬）を行った。

2) IATA SC (Slot Conference) 149回会議への参加

SC149回会議がイタリア・ローマにて11月16日～19日の間開催された。新型コロナウイルス感染拡大の状況を踏まえ、感染拡大後初めての現地開催とオンライン方式を併用したハイブリッド方式で開催することとなり、日本乗り入れ航空会社とオンライン方式で個別面談を行い2022年夏ダイヤにおけるスケジュール調整を行った。

2. WWACG会議、JSAG会議、IATA, ACI, WWACGの

3者協同で設立したWASB会議への貢献

発着調整事務局の国際的組織であるWWACG会議のボード・メンバー（7ヶ国）として、IATA、ACI及びWWACGの3者協同で設立したWASB会議（Worldwide Airport Slot Board：航空会社7社、空港会社7社、コーディネーター7機関の21名で構成される合同会議）に参加し、日本及びアジア太平洋地域の代表としての貢献を行った。なお、令和2年3月に計画された第1回WASB会議が新型コロナウイルスの影響で延期された以降、オンライン方式での開催が続いたが、本年3月にスイス・ジュネーブで初めて対面して行う現地開催とオンライン方式を併用した会議が開催された。日本からは、日本の水際規制等の現状を踏まえオンライン方式での参加となった。

この会議は、本来、スケジュール調整に関する問題点の抽出、問題の解決に向けた議論、得られた解決案を反映するため世界共通のガイドラインであるWASGの規則改定の実施等について幅広く議論がなされるものであるが、本年度は、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大の影響で大きく落ち込む航空需要の中で航空会社及び空港がこの状況を乗り越えるための課題を中心に議論し、スロットのU/L免除（80%の運航条件の免除）のあり方、感染収束後を見据えた課題や次年度の優先検討課題の選定等について計7回の会議を開催し議論を重ねてきており、これら会議に日本及びアジア太平洋地域の代表として参加し各種提言を行った。

上記のほか、コーディネーターとしての情報共有等を行うWWACGの全体会合、WASB会議の事前準備等を行うためのWWACGボードの会議や、SC開催に向けた調整を行うIATAとWWACGの会議等（いずれもオンライン方式）に参加している。

3. APACA（アジア太平洋発着調整事務局連合）

会議の開催

日本・オーストラリアが中心となってアジア太平洋地域における発着調整事務局の連合設立の働きかけを行ない、SC127会議（2010年開催）において正式にAsia/Pacific Airport Coordinators Association（APACA）が発足した。このAPACAの主目的は、アジア太平洋地域の各コーディネーターが抱える問題点の共有、解決策の模索、IATA/ACI/WWACGの定めるガイドラインの啓蒙等であり、発着調整組織の国際的組織であるWWACGの下部機関として活動することである。

本年度においては、SC148会議（6月）及びSC149会議（11月）の開催に合わせてAPACA会議を開催する予定であったが、SCがオンライン方式又はハイブリッド方式での開催となったため、同時期にオンライン方式でAPACA会議を開催した。

(1) APACA/21会議

SC148会議前日の6月14日、第21回APACA会議をオンライン方式で開催した。第21回会議では、WASB及びWWACGの活動状況、メンバー各国における新型コロナウイルスへの対応状況等について議論・意見交換を行った。

(1) APACA/22会議

SC149会議前日の11月15日、第22回APACA会議をオンライン方式で開催した。第22回会議では、WASB及びWWACGの活動状況、メンバー各国における新型コロナウイルスへの対応状況、SHL/SAL送付日の適切な公示等について議論・意見交換を行った。

4. 国際線発着調整事務局「運営協議会」

従来、国際線発着調整事務局を資金面、組織面で支援してきたのは、日本航空（JAL）、全日本空輸（ANA）、日本貨物航空（NCA）、成田国際空港、関西エアポートの5社であったが、事務局の更なる独立性、中立性、公平性を確保するため、全本邦航空会社、全混雑空港からの支援を受容できるような体制強化を図った。

平成28年12月、本邦航空会社16社、空港会社等8社から成る「国際線発着調整事務局運営協議会」を設立し、資金的支援、人的支援を受けることとした。本年度においては、第10回、第11回運営協議会を開催した。

(1) 第10回国際線発着調整事務局運営協議会の開催

第10回国際線発着調整事務局運営協議会を7月13日にオンライン方式で開催した。この会合において、①令和2年度決算報告、②令和2年度事業報告、③令和3年度予算執行状況・業務体制報告、④関西国際空港のレベル3の混雑空港への指定、⑤2021年冬期スケジュールの調整状況報告、⑥IATA等の動向、⑦東京オリンピック・パラリンピック2020に関する特別調整の状況等の議題に関し議論し承認を得た。

(2) 第11回国際線発着調整事務局運営協議会の開催

第11回国際線発着調整事務局運営協議会を12月14日に、航空会館9階会議室における実地開催とオンライン方式を併用するハイブリッド方式で開催した。この会合において、①令和3年度第1～第3四半期予算執行状況報告、②令和4年度業務体制(案)、③令和4年度予算(案)、④令和4年度運営資金分担(案)、⑤運営協議会規約及び基本覚書の改訂、⑥2022年夏期スケジュールの調整状況報告、⑦IATAの動向等の議題について議論し承認を得た。

5. 国際線発着調整事務局の中立性等の推進

WASGには、国際線発着調整事務局の中立性、公平性、透明性等の確保に関するガイドラインが定められているが、当事務局として更にこれらを推進するため、下記に示すような取り組みを行った。

- (1) 第10回国際線発着調整事務局に関する運営協議会を開催した。(7月)
- (2) 第11回空港発着調整委員会及び第2回スロットモニタリング委員会を開催した。(9月)
- (3) 第11回国際線発着調整事務局に関する運営協議会を開催し、令和4年度の予算案を可決した。(12月)
- (4) 航空保安大学校へ講師を派遣し、これから全国各地に赴任していく航空管制運航情報官を対象として、国際線発着調整業務の説明を行った。(2月)
- (5) 空港発着調整業務セミナーを開催し、本邦及び外航(国内の事務所)でスケジュール調整に関する業務を担当するスタッフ等を対象として、発着調整に係る基礎知識、適切なコミュニケーションの実施、日本固有のルール等について説明を行った。(3月)

6. 日本乗り入れ航空会社数

現在、国際線発着調整事務局において、スケジュール調整を行っている日本乗り入れ航空会社数は、延べ133社であり空港毎に下表のとおりである。

地域	成田国際空港	東京国際空港 (羽田)	関西国際空港	新千歳空港	福岡空港
日本	8	7	6	9	13
北米(カナダ、メキシコ含む)	10	5	6	1	2
欧州	15	8	6	2	1
アジア・オセアニア、南太平洋	67	27	58	31	41
その他(中東、アフリカ等)	7	3	3	0	0
合計	107	50	79	43	57

Ⅸ. 航空会館運用事業

1. 新型コロナウイルス感染症対策

令和2年5月に新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドラインを制定し、以下等の対策を徹底した。

- (1) 共用エリアの接触部分については、1時間毎の消毒を実施。
- (2) 入口や各フロアに消毒アルコールを設置。
- (3) 館内従業員が体調不良の際には出社させないなど、感染症拡大予防への意識徹底。

2. 航空会館のテナント貸室事業

日頃寄せられるテナントからのご意見に対して、安全・衛生的、快適に利用出来るように日々のきめ細かな管理・運営に努めた。現在テナントは満室である。

3. 貸会議室事業

公益法人として求められる事業を着実に安定的に推進していく為、令和2年10月1日より、会議室運営全般をANAファシリティーズ株式会社へ移管し、一部をレンタルオフィス・賃貸オフィスとの併用運用を開始した。コロナ渦の影響により貸会議室需要は、冷え込んでおり、レンタルオフィスについても引き合いは無く、一部賃貸オフィスとして成約したが、厳しい状況が続いている。

Ⅹ. 航空クラブ

令和3年度の航空クラブの活動は、前年に続き新型コロナウイルス感染症流行の影響を強く受けた。緊急事態宣言の発令により、6月の総会・懇親会は中止し、特別講演会はオンライン配信とした。総会を中止した為、運営委員の改選決議は、航空クラブ規約第11条2項の但し書により、総会の議決を省略して会長が新運営委員を委嘱した。会員各位にはホームページにて報告した。運営委員会は7回開催し、うち4回は書面開催とした。卓話会は4回開催し、うち3回は文化事業の定例講演会との共催とした。感染症対策として会場での参加者数を制限し、全ての卓話会は同時または録画にてオンライン配信を行った。また、見学会等の開催は見送った。

同好会活動では、囲碁、書道、写真の各同好会は、コロナ禍により例年通りの活動はできなかったが、航空会館の施設を利用して会員相互の親睦を深めた。

機関紙「航空クラブニュース」は5月と9月に発行したが、経費削減のため、今年度より全てWEB版とし、希望者にはプリントを渡すこととした。

令和3年度末の会員数は343名となり、特に個人会員数は約100名に減少した。

航空クラブは、航空・宇宙関係者相互の交流啓発を目的として1978年に設立され、発足から43年目となった。財政面では、会員からの会費と協会からの賛助により任意団体として運営してきたが、近年は会員数の減少により財政も厳しさを増している。

このような状況を踏まえ、航空・宇宙関係者の交流啓発の担い手として航空クラブを存続させるため、会員各位に対し「航空クラブの運営体制の変更について」を提案し、2月の臨時総会（書面開催）にて承認された。これに基づき、令和4年4月1日より航空クラブを日本航空協会の直営事業に変更する。なお、会員各位へのサービス等の変更は行っていない。

協会直営化により財政面では安定化が図られるが、会員数の減少など航空クラブには多くの課題が残っている。日本航空協会の一翼として、航空・宇宙関係者の交流啓発を担う航空クラブの今後の在り方について、令和4年度に運営委員会にて検討を行うこととする。

(1) 会員数

(令和4年3月31日現在)

	東京	地方	計	前年比
個人会員	27名	7名	34名	94%
推薦会員	56名	10名	66名	94%
特別会員	56名	2名	58名	93%
特別法人会員	4法人/185名	—	4法人/185名	100%
合計	324名	19名	343名	97%

(2) 運営委員会

	開催日	議題等
第1回	令和3年5月27日 (書面)	<p><付議事項> 総会提出議案について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度事業報告及び決算報告 ・令和3年度事業計画及び収支予算 ・役員(運営委員・監事・顧問)の推薦 <p><報告事項> 令和3年度総会の開催等</p>
第2回	令和3年7月8日	<p><付議事項> 運営委員長の選任等</p> <p><報告事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度事業報告及び決算報告 ・令和3年度事業計画及び収支予算 ・運営委員任命の経緯及び航空クラブ運営の現状と課題等
第3回	令和3年9月2日 (書面)	<報告事項> 活動報告等
第4回	令和3年11月4日	<p><付議事項> 航空クラブの運営体制の変更について</p> <p><報告事項> 活動報告等</p>
第5回	令和3年12月8日	<p><付議事項> 航空クラブの運営体制の変更ならびに臨時総会の招集について</p> <p><報告事項> 活動報告等</p>

第6回	令和4年1月28日 (書面)	<付議事項> ・航空クラブ臨時総会の書面開催について ・総会提出議案について 航空クラブ事業の日本航空協会への移管について 航空クラブ規約の改定について
第7回	令和4年3月3日 (書面)	<付議事項> 令和4年度事業計画案および予算案について <報告事項> 臨時総会結果報告および活動報告等

総会

	開催日	議題等
総会	令和3年6月16日 (中止)	(運営委員の選任は、運営委員会承認後、総会での議決を省略し会長が委嘱した)
臨時総会	令和4年2月16日 (書面)	<付議事項> ・航空クラブ事業の日本航空協会への移管について ・航空クラブ規約の改定について

活動（卓話会、特別講演会、新春卓話会）

	開催日	テーマ	講師	参加数
卓話会 (*1)	4月21日	エアガール・スチュワーデス ・キャビンアテンダント ～私たちの時代	「日本航空一期生」 著者/ノンフィク ション作家/ 中丸 美繪 氏	1,342人 アーカイ ブ視聴回 数：771回
特別 講演会	6月16日	コロナ禍の世界と 日本の外交課題	元外務事務次官 齋木 昭隆 氏	録画配信
卓話会 (*2)	12月8日	(1)そろそろ行きたい！ ～達人から学ぶ旅「旅行ガ イドブックができるまで～ (2) 旅の図書館&航空図書 館のご紹介	JTBパブリッシン グ(株) CSR推進部長 小松田 淳 氏	会場参加 者数10名 オンライ ン：526名
新春 卓話会	1月12日	令和4年の航空行政の 現状と展望	国土交通省 航空局次長 海谷 厚志 氏	50名/ 録画配信

卓話会 (*3)	3月25日	夢をつなげよう！ そら（空/宇宙）へ向かって ～空研究者だけど、パイ ロット？アクロ？マルチナ 生き方のコツを伝授～	宇宙航空研究開発機 構 航空利用拡大イ ノベーション 主任研究開発員 飯島 朋子 氏 （一社）日本女性 航空協会 理事長 鐘尾 みや子氏	会場参加 者数47名 オンライ ン：309名 アーカイ ブ視聴回 数：250回
-------------	-------	--	---	---

*1 定例講演会との共催/オンライン開催

*2 定例講演会、旅の図書館との共催/ハイブリット開催/会場参加数は航空クラブ会員

*3 定例講演会、（一社）日本女性航空協会との共催/対談形式/ハイブリット開催/

会場参加数のうち航空クラブ会員は6名

(4) 航空クラブニュース

発行号	発行月
138号	令和3年5月（WEB版）
139号	令和3年9月（WEB版）

事業報告に係る附属明細書

「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」に該当する事項はありません。